

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年7月20日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 被爆者の遺骨を探して

広島・似島で発掘調査をする広島大大学院生

22日(日)



原爆投下直後、広島市沖合の似島（にのしま）には臨時野戦病院が設けられ、多数の被爆者が運び込まれました。島の調査を続ける広島大大学院生の嘉陽礼文（かよう・れぶん）さん（40）が今年4月、14年ぶりに新たな遺骨を発見しました。嘉陽さん自身、沖縄戦で親族を亡くし、遺骨が見つかっていません。



「遺骨のない家族にとって戦争は終わっていない」。そう語る嘉陽さんと遺族にとっての73年間に迫ります。

筆者は広島支局の寺岡俊記者です。

東京オリンピックまであと2年

## 企画「Moment '18夏」スタート

社会面 23日(月)～27日(金)

7月24日は東京オリンピック開幕のちょうど2年前。カウントダウンもいよいよ本格化してきました。開幕までの節目節目に、五輪に関する旬のテーマを取り上げる連載企画「Moment（モーメント）'18夏」が23日からスタート。

海外のテレビ放映時間に合わせるために苦心する競技日程の編成や、ホテル不足に一役買うと期待される民泊事情、聖火リレーをめぐる自治体や地域同士の綱引きなど、東京五輪をめぐる各地の様相や人々の姿をレポートします。

## 多様な性 みんなで考える

くらしナビ面 24日(火)

性的少数者（LGBTなど）に対する社会の関心が高まり、ニュースで目にする機会も増えてきました。子ども自身や、学校の友だち、その親が、当事者かもしれません。性の多様性を子どもに教えるにはどうすればいいのでしょうか。

同性婚を実現した男女平等の先進国・フィンランドの専門家の意見を参考に、性別による「らしさ」から抜け出す大切さを考えます。

## 水道民営化の問題点

夕刊特集ワイド 24日(火)

「日本の水道が外資に売り飛ばされるのでは」「水道事業の基盤強化のためには民営化が必要」——。国が推進する水道法改正案。水道事業の運営権を自治体が民間業者に委託する「コンセッション方式」の導入が盛り込まれているだけに、賛否の声が聞こえます。

今国会では成立せず継続審議となりましたが、日々の暮らしに必要な不可欠なインフラだけに、今のうちに問題点を整理しておく必要があるでしょう。海外の事例も含めて専門家に聞きました。

## 論点 カジノ法成立 吉と出るか、凶と出るか

オピニオン面 25日(水)

カジノを含む統合型リゾート(IR)実施法が成立。3カ所の誘致候補地には大阪府や和歌山県などが名乗りを上げています。その経済効果は「年間2兆円」ともされますが、試算の妥当性には疑問符が付き、ギャンブル依存症患者が増える可能性を危惧する声も出ています。カジノ解禁という「賭け」は日本社会にとって吉と出るでしょうか、凶と出るでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

## 温暖化で増える豪雨

環境面 25日(水)

犠牲者が200人を超え、平成最悪の豪雨災害となった西日本豪雨。気象庁の予測では、このまま地球温暖化が進んだ場合、1日に200ミリ以上も降る大雨の年間発生回数が平均で2倍以上になります。また、高温や熱波などの個別の異常気象と温暖化との関係を調べる研究も進んでいます。

## 相模原障害者施設殺傷事件2年 支援の現場から

医療・福祉面 25日(水)

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が殺害された事件から間もなく2年。障害者の生を否定するような被告の供述に、多くの人たちが傷つき、悩みました。

それでも前を向き、誰もが分け隔てなく暮らせる社会を目指して支援活動続ける当事者や、その家族を追いました。

## スマートバーベキュー

くらしナビ面 25日(水)

アウトドアレジャーの定番といえば、家族や友人とワイワイ楽しむバーベキュー。近ごろは、準備や片付けが手軽な「スマートバーベキュー」が注目されているとか。安全に素早く炭に着火できる「チムニースターター」や水鉄砲、火消しつぼ。

スマートバーベキューに欠かせない「三種の神器」を紹介するとともに、ひとときわおいしい焼き方・食べ方を伝授します。

## 「幻の科学技術立国」第2部スタート

科学面 26日(木)

衰退しつつある日本の科学技術の現場を歩き、その原因を考える連載「幻の科学技術立国」の第2部がスタートします。

研究現場の疲弊と窮状を丁寧にルポした第1部に続き、第2部では「源流を探る」をサブタイトルに、そうした現状を生んだ政策は誰が、どんな考えで進めてきたのかを検証します。初回は、科学技術予算の増額を巡る省庁の攻防を描きます。